

日光白根山山行報告

【山行日】2020年12月13(土) 曇り

【集 合】栃木市運動公園P AM 4:30

【費 用】マイカー1台 : 2400円

【メンバー】CL:鈴木、SL斎藤、清水カ、鶴見、
福島、松館

【コースタイム】栃木市運動公園P4:30＝

菅沼P6:15/6:35～弥陀ヶ池8:30/8:45～

白根山10:05/10:30～弥陀ヶ池11:35/12:20～

菅沼P13:35/13:50～おおり荘14:05/15:00＝

栃木市運動公園P16:35



毎年恒例の日光白根山新雪トレーニングを計画した。今年は12月に入っても暖かい日が続き、奥日光の山々に雪が見られなかった。東北道から日光宇都宮道を通り、いろは坂を登って行くが雪が全く無かった。戦場ヶ原も雪は全く見られず、茶色い草原が広がっていた。赤沼茶屋に寄り、トイレを済ませてから菅沼登山口に向かう。



湯元から金精峠までも道路に雪が無く、金精トンネルを抜けて登山口駐車場も雪が少なかった。毎年来ているが、これほど雪が無いのは初めてのことである。

駐車場に車を止めたが、さすがにこの時期は係員が居なくて無料で止められる。準備を整え、ストレッチを行ったら出発する。駐車場の奥に向かって平坦な道を進み、案内板のところで右に折れ沢沿いの道を進む。

大きな岩を過ぎてから、右に斜面を登るようになると登山道に雪が出てきた。5～10cmの積雪で、登るのには全く問題ない。コメツガやアスナロの針葉樹林帯の道をジグザグに登り、小広い場所で休憩し衣服調整と水分補給を行う。やがてシラビソの樹林帯になるが、木の枝にも雪はほとんど付いてない。弥陀ヶ池まで0.9Kmの標識を過ぎ、座禅山の東側を巻くように登ると弥陀ヶ池北端に出る。弥陀ヶ池の西側を木道で行くが、木道にも雪が全く無かった。晴れていれば正面に白根山の姿がドーンと見えるはずだが、あいにく曇っていて何も見えなかった。弥陀ヶ池南端の広場で休憩し、雪が少ないがここからアイゼンを付けて登ることにする。座禅山の鞍部までは雪が少なく、岩が露出していて歩きにくい。鞍部からはやや雪が多くなり、雪が積もった場所を選んで登る。森林限界を過ぎると風が強くなり、小雪がちらついて視界も悪くなる。



岩場の登りは登山道を外さないように、慎重に登って行くが雪が少なくて登りにくい。ルンゼ状の岩場を登りきると尾根に出て、強風に晒され顔が痛い。少し先の風が弱い場所まで進み、目出帽やバラクラバを被って山頂の登りに備える。この先の標識に従って急な岩場を下り、登り返して大きな岩が重なる間を登ると白根山山頂に出る。晴れていれば360度の大展望が広がり、日光連山をはじめ会津の山々から富士山まで望めるが、今日は小雪が舞う天気で何も見えない。山頂で記念写真を撮り、皆さんがスマホで写真を撮り合ったら早々に下山する。下山は往路を戻り、一旦下って登り返して風が弱い場所で休憩する。ここら辺から登山者が次々と登ってきて、山頂が賑やかになりそうである。



ある。我々はカキや菓子をいただき、エネルギーを補給したら下山する。トレースが風と雪で消され、ルートを慎重に確認しながら下る。登ってくる人も同じで、我々を見ると安心してこちらに向かってくる。我々も登ってくる人がいるとルートが分かり、安心して下ってゆける。ルンゼ状の急な岩場を慎重に下り、傾斜が緩くなると少し安心できる。次々と登山者が登ってくるので待たされるが、ギターを背負って登る若者がいた。声をかけると「山頂で演奏したいので背負ってきました」と言うが、装備や足取りを見ると山頂まで行けるか心配になる。弥陀ヶ池まで下り、アイゼンを付けているので木道を避け、凍った池を歩いて北端まで行きランチタイムとする。アイゼンを外してお湯を沸かし、各自持参したカップ麺やスープで体を温める。パンやおにぎり、トマトやデザートのリンドを食べて下山開始。アイゼン無しで軽快に下り、前のグループを抜いて無事登山口駐車場へ下山した。車には1cmほど雪が積もり、ずっと小雪が舞い散る天気だったが、山頂まで登り皆さんの顔は達成感に満ち溢れていた。靴を履き替え荷物を車に積んだら、湯元温泉「おおり荘」目指して出発する。おおり荘でゆっくりと温泉に浸かり、疲れた体を和らげる。温泉から出たら、ロビーでリンゴとまんじゅうをいただいて岐路に着く。湯元からは晴れていて、車は渋滞もなく順調に走り予定より早く栃木市運動公園へ帰着した。

ある。我々はカキや菓子をいただき、エネルギーを補給したら下山する。トレースが風と雪で消され、ルート

を慎重に確認しながら下る。登ってくる人も同じで、我々を見ると安心してこちらに向かってくる。我々も登ってくる人がいるとルートが分かり、安心して下ってゆける。ルンゼ状の急な岩場を慎重に下り、傾斜が緩くなると少し安心できる。次々と登山者が登ってくるので待たされるが、ギターを背負って登る若者がいた。声をかけると「山頂で演奏したいので背負ってきました」と言うが、装備や足取りを見ると山頂まで行けるか心配になる。弥陀ヶ池まで下り、アイゼンを付けているので木道を避け、凍った池を歩いて北端まで行きランチタイムとする。アイゼンを外してお湯を沸かし、各自持参したカップ麺やスープで体を温める。パンやおにぎり、トマトやデザートのリンドを食べて下山開始。アイゼン無しで軽快に下り、前のグループを抜いて無事登山口駐車場へ下山した。車には1cmほど雪が積もり、ずっと小雪



が舞い散る天気だったが、山頂まで登り皆さんの顔は達成感に満ち溢れていた。靴を履き替え荷物を車に積んだら、湯元温泉「おおり荘」目指して出発する。おおり荘でゆっくりと温泉に浸かり、疲れた体を和らげる。温泉から出たら、ロビーでリンゴとまんじゅうをいただいて岐路に着く。湯元からは晴れていて、車は渋滞もなく順調に走り予定より早く栃木市運動公園へ帰着した。